

『天馬、亜細亜を駆ける』筈だったのに カトマンズ国際マラソン顛末記

ご承知の方も多いと思うが、私は日本にいた当時から「ベガサス走友会」の会員である。「ベガサス」のロゴ入りのユニフォームも持っており、ネパールに赴任する時にも、ひょっとしたら走る機会があるかもと秘かに期待して持ってきている。しかし、着任以来3回走ったマラソンでは、未だユニフォームを着たことがない。カトマンズ国際マラソンの存在を知った時、これをベガサスのアジアデビュー戦にしようかと心に決めていた。

これまで細々と続けてきたジョギングを、12月末からロードでの本格練習に切り替えた。カトマンズの南方約15kmにあるダクシンカリ寺院までの道をホームコースとし、菜の花が咲き乱れる段々畑をぬって、北方に聳えるランタンヒマール山群を見ながらカトマンズに向かって駆け下るコースで練習を積んできた。時に平日なのに学校に行っていない子供達とかげっこをし、時には犬に追いかけられ、脚力とスタミナを磨いてきた。練習本格再開から2月22日の本番までに走った距離は約250km。万全の態勢で臨める筈だった。ところが・・・

本番まであと3日と迫った2月19日、私は大会事務局から信じられない電話を受けた。「大会延期」の連絡だった。理由を聞いて呆れてしまった。スポンサーが見つからなかったからだとか。

スポンサー難の話は昨年9月に新聞で読んだことがあったが、今月に入って募集を確認した段階で、既にスポンサーの問題はクリアされたものと思っていた。日本だったら主催する自治体が赤字になっても決行するだろうが、この大会は小さな旅行会社が主催していた。メインスポンサーが決まらなくて旅行会社が自腹を切るには限度もあるだろう。

事務局がやたらと「延期」にこだわったので、いつまで延期かと尋ねたところ、「当分の間」とか。9月から決まっていなかったスポンサーがこの期に及んですんなり決まるとも思えず、いったん払い込んだ参加料を返してもらうことにした。ネパール在住なのでリファンドは楽だろうが、もし外国からツアーを組んで参加する人はどうなるのだろうか。

実は、去年も1月27日開催予定で日本の雑誌でもツアー募集がされていたのに、実際は2月23日に突如開催された経緯がある。ひょっとしたら3月下旬くらいに開催されるかもしれないと、期待せずに待ちたいと思う。ネパール人のことだ、突然やるかもしれないし、いつまでもやらないかもしれない。妙に納得している自分が本当情けない。(浩司)

僕らは仕事をしているもん 日本も真っ青、ネパール版「お役所の掟」

2月に入りいつものように電話の請求書をドライバーにとりに行ってもらうと、何故か11月から12月分と12月から1月分の2ヶ月分の請求になっていました。ちょっと不思議に思いながらも、「以前電話局がストライキをしていたために遅れていた請求が今月ようやく追いついたのだな。」と勝手に解釈して、手持ちの現金もなかったので、キャッシングしてから払いに行こうと思い、すぐに電話料金を払わずにいました。

いざ電話料金を払いに行くと、2ヶ月分の請求書のうち前の1ヶ月分の延滞料金を請求されてしまいました。私は毎月電話料金を払いに来ていたので延滞料金を払うのに納得がいかず、窓口の人に抗議すると「私では解らないので上司に言ってくれ。」と言われ、別室の上司を探し理由を聞くと、「電話料金は毎月使用月の1ヶ月後のネパール暦で23日から29日が支払日で、あなたの場合はそれに1日遅れているので延滞料を払わなくてはならないのです。」と説明されました。しかし、私はその説明に納得がいかず「実際その請求書が手元に来たのは1週間程前で1ヶ月前に取りに来たときはさらに前の月の請求書しか渡されていない。請求が遅かったそちらにミスがあるのではないか。」と説明しても、「請求書は別のセクションが作っているのでよく解らないが、作られてから2～3日でここに届く筈だから、1月には来ていた筈だ。」と言われ、いくら説明しても解ってもらえませんでした。暫く押し問答をしていたのですが、最終的には「私に延滞料を免除する権限はないので不満なら本局の一番偉い人に言ってくれ。」と言われ、口論の空しさもあり、諦めて延滞料を払ってしまいました。結局今回のことは、西洋暦とネパール暦が違っていることと、ネパール暦の23日から29日が支払日であることを知らなかったために起こったことなのですが、請求するのが遅い電話局の問題なのにと釈然としない気分でした。

翌日、2ヶ月程請求が来ていなかった電気料金についても不安に思いドライバーに電気局に行って調べてもらいました。すると、電気局にはメータチェックの人から「人がいなくて門は鍵がかかって閉まっているし、犬が放されているのでメータを見れなかった。」と言う報告が出ていて、そのために請求をしなかったそうです。実際我が家には常に人がいるのでそんなことはなかったはずだし、請求書自体が届いていないのです。そこで思い出したのは、3ヶ月前にメータチェックに来た時、土足のまま家の中に入ろうとする担当者に「靴を脱いで入れ。」と怒ったことでした。その一言で彼は頭にきて嘘の報告をしていたのでしょ。仕方ないなと思いつつも、基本料金分の請求書を1ヶ月分持ってきたので、お金を渡してドライバーに払いに行ってもらいました。しかし、20分もしないうちに彼が戻って来たので尋ねると、「2ヶ月分支払っていないので2ヶ月分とプラス1ヶ月は延滞料を取ると言われた。」というではありませんか！

仕事をしない役人に問題があるのに・・・。ネパールの理不尽さを感じさせられました。

(美澄)

私の仕事紹介（その12） 秋篠宮ご夫妻ネパール訪問

2月は訪問客が多かった。中でも印象的だったのは、2月27日から3月3日までご滞在された秋篠宮殿下と紀子妃殿下であった。そもそもJICAのオペレーションではなかったが、大使館から支援の要請があり、約10日間事務所の業務そっちのけでかり出された（そんな事情を知らない本部の連中は、締切のきつい提出依頼をやたらぶつけてきたが）。

カトマンズ国際マラソンの前日から準備に加わったが、いきなり帰りが午前2時だった。私は車列担当で、両殿下が移動される際の車列の最後尾に付いて、随行員の方々に車を案内する係となった。しかし、ネパール王室の招きによる今回のご訪問、ネパール側の車両提供台数が確定せず、直前まで配車スケジュールが確定させられなかった。週末もつぶれ、毎晩帰りが深夜で、本番を迎える前に既にバテ気味だった。本部財務2課にいた頃の予算作業を思い出した。

そうして迎えた本番。最近ネパール側の対応の遅さにイライラさせられることが多かったが、この時のネパール側の車列編成の鮮やかさは感動ものだった。ネパール人だって、やればできるじゃないか。本番のオペレーションに入って若干の変更は出たものの、5日間をほぼ滞りなく終えることができた。でも早朝から夜まで続く日程に、完全憔悴だった。

間近で見た紀子様、カワイイ♥。近くで拝めて幸せだった。宮様は白髪の多さが目立った。お二人が仲良く写真に写られるお姿を拝見して、私もカメラを持ってくればよかったと度々後悔した。JICAや大使館員の奥様連中の中には、行く先々に出没して、黄色い声援をあげるミーハーな方もかなりおられた様子だ。

滞りなくオペレーションを終えてほっと一息。でも、こんなに事務方が体力を消耗し、移動する度に沿道の市民に迷惑をかける外遊は、あまりやってほしくない。いや、私の任期中にネパール再訪だけはしてほしくないものだ。（浩司）

カトマンズ盆地外輪山紹介（1） チャンドラギリ連山

「月の山」という意味のチャンドラギリは、カトマンズ南西、キルティプールの裏山である。南向きの我が家の窓から眺めることができる唯一の山で、2つの峰からなるその姿は、昼間に見ても美しい。特に今の季節は、山の向こうに日が沈むため、夕日に浮かぶシルエットもとても美しい。美澄が妊娠し、出産後も暫くは長期のトレッキングは難しく、代わりに近郊の山々を踏破しようとは私は考えた。チャンドラギリへは、ダクシンカリ道路でマラソン練習を始めて以来、アプローチする歩道をいくつか発見した。そして、丁度バングラデシュ事務所の福田さんがネパールを訪れたのを契機に、2月12日、左側の峰「チャンパデヴィ」（2278m）踏破を試みた。

我が家からリングロードまで歩き、タクシーを拾ってバンスバンまで行く（250ルピー）。ここからは尾根（ネウパネダラ）沿いに緩やかな坂を登る。1カ所丘陵になっている場所があって間違えやすいが、頂上付近が急坂で最大の難所なのがチャンパデヴィである。所々足を止め、カトマンズ盆地とその向こうのヒマラヤを眺めると良い。アプローチは幾つかあるが、途中景色を楽しみながら歩けるこのルートがお薦めである。約2時間半の登坂。山頂には白い仏塔が建っているが、長く使われておらず、周りは灌木が密集している。あまり景色が良くないので、山頂手前の草原で弁当を広げると良い。

帰りは来た道を引き返し、稜線が落ち込んだ所からキルティプールやチョーバル方面に向かって下る歩道がある。私達は麓に点在する村落を北に回り込み、キルティプールが丁度東に見える地点から一気に坂を下りた。後は住宅が密集する丘を目指して歩道を歩き、バス停からカトマンズ行きのバスに乗り、リングロードで下車（4ルピー）。ここから我が家までは10分程度である。合計歩行時間は約5時間。自宅から行ける最もコンパクトなトレッキングである。（浩司）

危ない！ちゃんと見てよ 無謀な自転車とバイクにご用心

先日浩司さんに届けものをするためにJICA事務所に入ろうとしたところ、前を横切ろうとした自転車がスピードを落としきれず車にぶつかってきました。自転車を運転していたお兄さんは「大丈夫傷は付いてない」という顔をしてそのまま立ち去ろうとしたので、慌てて車から降り自転車を捕まえて自分の車の方へ連れてきました。というのも以前バイクにこずられてそのまま逃げられた苦い経験があったので、「傷がついているかいないか確認するまで逃がさないぞ。」と思ったからでした。

とりあえず車に傷はなく無事だったのですが、よくよくその自転車をみるとブレーキが付いていないではありませんか！これでは止まれないのも無理ありません。そのくせ車の前後をチョロチョロと走るのでとても危ないのです。以前から自転車とバイクはいつぶつかってくるかわらなくて注意が必要だと思っていましたが、ますますそう思うようになりました。

（美澄）

編集後記

★最近、ネパール人の行動パターンにイライラさせられることが多くなりました。マラソン「延期」など、この国ならあり得ると納得しましたが、さしたる根拠もなく「延期」にこだわるどころに腹が立ちました。皆さん、ネパール人がよく口にする「No problem!（問題ないよ）」は大いに問題があるという意味です。さもないと、問題が起こった時に「ケ、ガルネ（だからと言って俺に何ができるというんだい）？」と聞き直られてしまいます。ネパール人には申し訳ありませんが、彼等の言葉は顔面通り受け取らないことが、この国で外国人が生活してゆく術であると感じています。（浩司）

★妊娠中はホルモンのバランスが崩れて精神的に不安定になりやすいと言われますが、今月はイライラしたり、怒ることが多く、また使用人のシータがまた高熱のため入院し（一時腸チフスの疑いがあったのです）心配事もあり、初めて我が家に日本からのお客様もお迎えしその準備と、浩司さんの仕事の忙しさとが重なりとても慌ただしい1ヶ月でした。ネパールでの生活も1ヶ月半ほどになり、留守中の我が家の使用人のこと等我が家の体制をどうするかちゃんとしておかなくちゃと思いつつ毎日が過ぎていきます。（美澄）